

日本語教育 2014 年后半年活动档案

- 关于《艾琳学日语》教案评比大赛的通知
- 2014 年 12 月日语能力测试报名的通知
- 2014 年夏季全国中等教育教師研修会の実施報告
- 2014 年第 9 回全国大学日本語教師研修会の実施報告
- 2014 年日本語教育学実践研修の実施報告
- 2014 《艾琳学日语》教案评比大赛公布结果！
- 2014 年度第 3 回日本語教育学シリーズ講座の開催
- 总部公开招募项目
- 关于举办"2015 春季全国中等日语教师研修会"的通知

2014『艾琳学日语』教案评比大赛 ~创意征集令! ~

《艾琳来挑战! 我会说日语》(日本国际交流基金会)是一部旨在促进“语言学习”和“不同文化·多元文化理解”的影像教材。

为使该教材在中国的中学日语教学中更好地得到应用,北京日本文化中心将其改编,出版了《艾琳学日语》(人民教育出版社)。

希望各位老师能通过使用《艾琳学日语》进行快乐教学。

艾琳学日语(中文) <http://www.jpfbj.cn/erin/>

主办:北京日本文化中心(日本国际交流基金会)

参赛资格:中国中等教育机构的中国人日语教师 ※平时教学中未使用《艾琳学日语》者也可参加。

参赛日期:2014年8月4日(周一)~8月31日(周日)

评委:北京日本文化中心(日本国际交流基金会)日语教育专家

人民教育出版社课程教材研究所日语课程教材研究开发中心

公布结果:2014年9月15日(周一)

评比结果将以电子邮件方式发送给参赛者本人。届时,北京日本文化中心主页艾琳特设网址也会公布,敬请关注。

奖励方法:最佳作品奖1名 颁发纪念品。邀请获奖者参加2015年春季全国中学日语教师研修会

(中国国内/举办地未定),并予表彰。同时会请获奖者在研修会展示获奖教案。

优秀作品奖2名 颁发纪念品。

★获奖者的姓名和教案,将在艾琳官网予以公布。

★评比结果公布后,请最佳作品奖获得教师录制在学校的实际授课视频,本中心会将视频在艾琳官网中登载。

参赛规定:从《艾琳学日语》(人民教育出版社)中选择1课,书写教案。授课时间为40~45分钟。

对所选课程中的任何部分均可进行设计。设计教案只允许使用《艾琳学日语》。教案请在规定的教案用纸上手写。

参赛方法:请将**参赛用纸**和**教案**以电子邮件方式发送至北京日本文化中心。

邮件地址: nihongo@jpfbj.cn

邮件名称:艾琳教案

北京日本文化中心(日本国际交流基金会)

地址:北京市朝阳区建国门外大街甲6号SK大厦3层301

邮编:100022

电话:010-8567-9511 传真:010-8567-9075

2014年12月日语能力测试报名的通知

2014年12月7日日本语能力测试网上报名将于2014年8月14日开始。有关报名、考试的相关规定和报名步骤，请仔细阅读报名网站的《考生须知》和《报名步骤》。

重要提示：中国大陆考生参加考试必须携带的唯一身份证件是有效的“中华人民共和国居民身份证”原件。根据《中华人民共和国居民身份证法》，任何居民无论是何年龄，均可向户籍所在派出所申领身份证。特别提醒未申领身份证或身份证已过期的青少年考生提前办理，以免影响考试。

网上报名分两个阶段进行。第一阶段考生仅进行个人信息注册和上传电子照片；第二阶段除考生可继续注册外，按N1、N2、N3~N5的顺序依次分别开放考试名额供已完成个人信息注册与上传电子照片的考生选择级别和考点，此阶段要求考生完成预定考位和支付考费等全部报名手续。

网上报名开通时间的具体安排如下

报名步骤		日期及时间	
		开通日期	截止日期
报名	注册	8月14日 14:00	9月8日 14:00 (逾期不予补报)
	N1	8月27日 14:00	
	N2	8月28日 14:00	
	N3~N5	8月29日 14:00	
打印准考证		11月28日 14:00	12月7日
考试		12月7日 13:00入场	
领取成绩单		考试结束后3个月左右到达考点	

报名网站网址为<http://www.etest.edu.cn>（教育网）或<http://www.etest.net.cn>（公网）。

2014年夏季全国中学日语教师研修会



日程：2014年7月31日～8月3日

会場：人民教育出版社（北京市）

主催：国際交流基金北京日本文化センター、人民教育出版社課程教材研究所

テーマ：以活動教学促能力发展

内容：「活動教学」とは何か、どのように授業をするのか、講義や教案作成を通して考えました。

参加者：57名（44機関）

テーマ：以活動教学促能力发展（活動授業で能力を伸ばす）

【1日目】

テーマに関する講義

- ・「以活動教学促能力发展」唐磊先生（人民教育出版社）
- ・「九年級教科書改訂」李家祥先生（人民教育出版社）

まず唐磊先生に中国の中学のシラバス「課程標準」の理念と「活動教学」とは何か、どう授業をデザインするのかお話いただきました。その後、李家祥先生に『日語』がなぜ、どのように改訂され、「課程標準」が改訂版『日語』にどう反映されているのか具体的にご説明いただきました。



- ・松浦とも子専門家（国際交流基金北京日本文化センター）
- ・柳坪幸佳専門家（国際交流基金北京日本文化センター）

教材分析の必要性や、ポイントについて講義を聞いた後、ワークショップ形式で、実際に改訂版『日語九年級』の教材分析を行いました。会話、課文、活動、実践、資料、単元まとめ・単元テスト・コラムの担当ごとに分かれてそれぞれ分析し、最後にグループで教材全体を分析しました。



【2日目】

説課（授業デザイン発表）

- ・北京月壇中学 李鷗先生 黄敏先生 徐睿先生
- ・北京市北外大附属外国語学校 魏譚先生

4人の教師が、改訂版『日語九年級』（人民教育出版社）第7課について、課全体のデザインと8コマのそれぞれの授業デザインを発表しました。

説課検討ワークショップ

班ごとにワークショップ形式で、「説課」を聞いて気づいたことなどをまとめ、議論を深めました。その後、テーマである「活動教学」に焦点を絞り、課題とその解決方法を考えました。



「説課」質疑応答



「説課」検討ワークショップ

【3日目】

教案検討・教案改善

事前課題として書いた教案を小グループで再検討し、ほかの参加者からのアドバイスや講師からのフィードバックを反映させ、教案を各自修正しました。



教案発表会

班ごとにまず小グループでそれぞれの教案を発表した後、小グループの代表が教案を発表しました。その後、教案作成作業を通して、気づいたことや学んだことを共有しました。

【4日目】

日本文化体験

JICA青年海外協力隊の有志の皆さんに日本文化体験講座をしていただきました。

- ・日本文化クイズ JICA清水昭子隊員（人民教育出版社）
- ・俳句・川柳 JICA中村孝幸隊員（撫順市朝鮮族第一中学）
- ・ダンス「恋するフォーチュンクッキー」 JICA熊谷彰子隊員（内蒙古赤峰市元宝区第二中学）



川柳 選句の様子



ダンス「恋するフォーチュンクッキー」

『艾琳学日语』紹介

鈴木今日子専門家（国際交流基金北京日本文化センター）

参加者の皆さんに『艾琳学日语』を使った授業を体験していただきました。最後に『艾琳学日语』教案コンテストの案内をしました。なお、教案コンテストについては、艾琳学日语特設サイトをご覧ください（<http://www.jpfbj.cn/erin/>）。

優秀教案発表・表彰

講師による厳正な審査の結果、以下の10名の先生方の教案が選ばれました。

一等賞：	付強	大連第五十一中学	李鈺	浙江省嘉興市平湖職業中学
	徐莉莉	西安外国語学校	袁桂紅	浙江省嘉興市平湖職業中学
二等賞：	劉婕	北京市十一学校	陸敏	蘇州外国語学校
	李海虹	臨海市外国語学校	張麗	ハルビン市方正県第一中学
	宋微	瀋陽市外国語学校	胡嘉穎	浙江省嘉興市平湖職業中学



一等賞受賞者



二等賞受賞者

講評

李家祥先生（人民教育出版社）

入賞した10名の教案について、李家祥先生から講評をいただきました。参加者はメモを取りながら熱心に聞いていました。



4日間に渡り、「活動教学」をテーマに、新人教師、中堅教師、ベテラン教師が入り混じって、熱い討論が交わされました。参加者の皆さんは、この討論を通して、いろいろな学びを得られたようです。この研修会で得られた学びをぜひ今後の授業に生かしていただきたいと思います。

アンケート記述から（一部抜粋）

- 唐磊先生の「活動教学で能力を伸ばす」を聞いて活動教学を学んだ。私の教学についての考え方も変わって、大いに啓発してくれた。（同様意見多数）
- 役に立つ知識をたくさん学んで、教学における活動教学の重要性を知った。（同様意見多数）
- 先生たちと討論した結果、自分の教案が大きく変わった。この過程の中で、色々と学びながら、自分のいろいろな方面の不足を深く認識した。（同様意見多数）
- 教案を修正するのは決して容易ではないが、自分の教案をよくして、互いに補完し合って、学び合うことがいいと思う。（同様意見多数）

■2014年夏季全国中等日本語教師研修会 日程

日にち	時間	内容	担当
7/31 (木)	9:00- 9:30	開会式・オリエンテーション・記念撮影	張金龍
	9:30-10:30	講義「以活动教学促能力发展」	唐磊
	10:30-11:30	講義「九年級教科書改訂」	李家祥
	12:00-	昼食	
	14:00-15:00	講義「教材分析」	松浦
	15:00-17:00	ワークショップ：教材分析	柳坪
	17:10-17:30	ポートフォリオ説明・記入	鈴木
	夜	懇親会	
8/1 (金)	9:00-12:00	説課『日語 九年級』第7課 ・李鷗 黄敏 徐睿（北京月壇中学） ・魏譚（北京市北外大附属外国語学校）	張金龍
	12:00-	昼食	

	14:00-16:20	説課 授業検討会（班活動）	A班：李家祥 B班：張金龍、柳坪 C班：張敏 D班：松浦、鈴木 E班：皮俊瑯、清水
	16:30-17:00	全体共有 ふりかえり ポートフォリオ	張金龍 鈴木
8/2 (土)	9:00-12:00	教案検討（班活動） ・事前課題（教案）振り返り ・教案フィードバック 教案改善	各班担当講師
	12:00-	昼食	
	14:00-15:00	映像鑑賞「東北 夏祭~鎮魂与牽絆~」（NHK） 国際交流基金紹介	守屋
	15:10-16:30	教案発表（班活動）	各班担当講師
	16:40-17:00	ふりかえり ポートフォリオ	鈴木
8/3 (日)	9:00-12:00	日本文化体験 ・日本文化クイズ 清水昭子（人民教育出版社） ・俳句・川柳 中村孝幸（撫順市朝鮮族第一中学） ・ダンス「恋するフォーチュンクッキー」 熊谷彰子（赤峰市元宝山区第二中学）	JICA青年海外協力隊
	12:00-	昼食	
	14:00-15:00	「艾琳学日语」体験	鈴木
	15:15-16:00	優秀教案発表 講評	張金龍 李家祥
	16:00-16:30	全体ふりかえり ポートフォリオ	鈴木
	16:30-17:00	修了式 ・全体総括 ・アンケート	張金龍 皮俊瑯

2014年第9回全国大学日本語教師研修会の実施報告

日程： 2014年7月18日～7月21日
会場： 中国遼寧省国航大厦ホテル（大連市）
主催： 中国教育部ネット研修センター
国際交流基金北京日本文化センター
中国教育部高等教育出版社
協力： 中国日語教学研究会
教育部大学外語教学指導委員会
後援： 在瀋陽日本国総領事館大連出張駐在官事務所
参加者： 全国の大学日本語教師 147名



研修目的

- (1) 日本語教育研究の動向を紹介する。
- (2) 日本語教授法、実践について考え、議論する場を提供する。
- (3) 文化に関する情報提供、または研修参加者による情報交流を促進する。

以上の目的のもと、「日本語教育研究と実践を結ぶ研修」を表題に実施し、毎年テーマを変えていますが、今年度のテーマは「シラバス—学習目標と評価」でした。

教育部大学外国語文学類專業教学指導委員会で国家スタンダードが制定され、来年度以降、各言語ごとに大綱シラバスが改訂されるということで、今年度は国家スタンダード及びシラバスに関し、現場の教師が理解を深める場として、また議論する場として設定しました。

研修会概要

①国家スタンダードの制定から見る日本語専攻のシラバス改革

講師：修剛先生

教育部外国語文学類專業教学指導委員会副主任 天津外国語大学学長

2014年中に制定予定の国家スタンダードの進捗状況と一部の内容、及び今後の計画を公表し、それに基づき来年改訂される日本語専攻の大綱についての枠組みを話されました。

国家スタンダードの制定に関しては初めて詳細を聞く参加者も多く、大綱改訂に先立って、教育現場が考えなければならない課題を考える機会となりました。

②授業計画と学習評価

講師：伊東佑郎先生

日本語教育学会会長、東京外国語大学留学生日本語教育センター長

コースデザインとは、授業計画とは何か、スタンダードとは何か、これからの学習評価の在り方について、東京外国語大学留学生日本語教育センターのスタンダード及びJF日本語教育スタンダードを例に、Can-do Statementsと評価について詳しく紹介されました。



修剛先生



伊東佑郎先生

③「大学日本語教学要求」と大学日本語

講師：趙華敏先生

大学外語教学指導委員会副主任 北京大学外国語学院副院長

大学で第二外国語として日本語を学ぶ学生の多様化しているタイプ、教材、四六級試を整理し、大学生の日本語教育と素質教育に関して目標とすることを話されました。

④Why What How能力を養成する－課程教学要求と応用

講師：林 洪先生

北京師範大学外文学院副院長 日語教育教学研究所長

教育学理論を枠組みとして、現場で養成すべき大学生の能力について整理されました。また、学生が自主学習能力を身につけるために教師がすべきことについて現場の視点で話されました。



趙華敏先生



林 洪先生

⑤パネルディスカッション「シラバスー学習目標と評価」

モデレーター：徐一平先生

中国日語教学研究会会長 北京日本学研究中心主任

上記①～④の講師をパネラーに迎え、午前中の①②の講義後のグループディスカッションで出された質問事項への回答を挟みながら、フロアからの質問を受けつつ、パネルが進行されました。多角的視点で「国家スタンダード」「大綱改訂」を捉えることができ、今後、教育現場が対応していかなければならない課題をそれぞれに考えることができました。



⑥ コースの目標、授業の目標－JF日本語教育スタンダードワークショップ

講師：松浦とも子・柳坪幸佳・鈴木今日子

北京日本文化センター日本語教育専門家

3クラスに分かれ、JF日本語教育スタンダードを紹介しつつ、言語行動とは何かを

考えるワークショップを通して、Can-do表記に関して理解を深め、自分たちでCan-do Statementを作る作業を経験しました。このワークショップを通して、後の「総合日本語ワークショップ」でコース目標を立てる際、言語行動目標を意識してもらいたいという狙いがありました。

⑦ 総合日本語ワークショップ

ファシリテーター：松浦とも子・柳坪幸佳・鈴木今日子

北京日本文化センター日本語教育専門家

上記⑥同様、3クラスに分かれ、さらに小グループごとに作業をした。中国の大学でよく使用されている総合日本語の教科書『新編日語』『総合日語』『基礎日語』の3種を教えると仮定して、2年生前期のコースシラバスを立て、それに基づき2時間分の教案を作成しました。言語行動目標を意識し、評価にも注目しつつ、4技能のバランスを考える中で、主幹科目である総合日本語をどう捉えるべきなのか、討論が活発に展開されていました。



⑧ 私の日本語教育研究

発表者：尹松先生 華東師範大学



日本語教育研究の推進を目的に、例年、2、3名の発表者に依頼していますが、今年はお茶の水女子大で日本語教育の博士学位を取得し、華東師範大で教鞭をとられている尹松氏が、「日本語学を専門とする教師の研究意識について—PAC分析による事例研究」及び「発音改善におけるシャドーイングの有効性—聴覚評価と音声分析ソフトの分析から」という2つのテーマで各30分ずつの発表(質疑応答含む)をされました。研究方法の紹介も丁寧で、フロアに音声を専門とする参加者もいて、質疑応答も活発で好評でした。

⑨ 総合日本語ワークショップ発表、総括

発表者：各クラス代表者

総括：北京師範大学

提出されたコースシラバスと教案から、北京日本文化センター専門家と林洪先生が4点代表グループを選抜し、その紹介とワークショップを通しての気づきを発表するように依頼しました。いずれも理念が明確で、言語行動を意識したコースシラバスになっており、ワークショップでの気づきも深い内容が語られました。各代表者の発表後、そのクラスの担当者から、当該教案が選ばれた理由を補足しました。

最後の40分間、林洪先生がワークショップの総括として、現場での授業の考え方について、まとめられました。林洪氏の学習者主体の授業の考え方に多くの若い教師が賛同し、励まされている様子でした。

総合日本語ワークショップ詳細

本日(8月20日)午前中の作業

①4人一組でコースシラバスを作る。(18週)

言語行動目標を明確に考える。

②1回(29時間)分の授業デザインを考える。

▶シート記入(日本語で)

1. 教学背景分析
2. 教学目标
3. 整体设计思路, 指导依据说明
4. 教学重点, 难点分析
5. 教学过程设计
6. 教学评价设计

午後2:00までに提出

①は必ず!

②は主要部分でよい

①と②の整合性を重視

本日(8月20日)午後の作業

①14:00-14:40

2グループで自分のコースと教案を紹介しあう。
15分×2

②14:40-15:00

他グループの質問を受けて改良。

③15:00-15:30

ふり返りとまとめ

午後3:00までに提出

今年教育部外国語文学類專業教学指導委員が、「国家スタンダード」を制定し、来年にはそれに基づき各言語ごとにシラバスを改訂するというので、「シラバス—学習目標と評価」をテーマに、中心となる柱をパネルディスカッションとコースデザインワークショップの2つに絞って研修を行いました。国のシラバスという、現場の教師にとっていわば「雲の上の話」を、教師一人一人の問題に引きつけ、実際の授業につなげて考えることができたのではないかと思います。

第9回大学日本語教師研修

2014.7.18-21

時間	内容		備考	
18日(金)				
14:00-17:00	登録			
19日(土)				
8:00-8:30	開幕式(記念写真)		「課程教学要求と 応用-教学目標と 学習評価」 4名のパネラーに1 時間ずつお話し いただく。	
8:40-9:40	修剛先生ご講演			
(休憩10分)				
9:50-10:50	伊東先生ご講演			
(休憩10分)				
11:00-11:30	グループディスカッション	修先生、伊東先生のご講演を聞いて、グ ループで質問を一つ書く		
11:30-13:30	昼食、休憩			
13:30-14:30	趙華敏先生ご講演			
(休憩10分)				
14:40-15:40	林洪先生ご講演			
15:50-17:00	パネルディスカッション 徐一平先生モデレーター 修先生 趙先生 伊東先生 林先生 フロア 尹松先生 参加者		先のお話をもとに、 フロアとの討論。 シート2参照	
18:00-19:30	懇親会			
20日(日)			3部屋	
8:30-10:15	JF日本語教育スタンダード・ワークショップ	北京日本文化センター 日本語教育専門家		
(休憩15分)				
10:30-12:00	総合日語ワークショップ	①②	コースシラバスを 作る	
12:00-14:00	昼食、休憩			
14:00-15:30	総合日語ワークショップ	③④	シェア	
15:45-17:00	全体ディスカッション 基金紹介、高教社紹介		発表者決定、通知	
21日(月)				
8:30-9:40	私の日本語教育研究	尹松先生 (60分質問10分)		
10:00-11:30	総合日語WS 講評	発表2組(1組20分質問10分)	発表	
11:30-13:30	昼食、休憩			
13:30-15:00	総合日語WS 講評	発表2組(1組20分質問10分)		
15:10-16:10	全体総括			
16:10-17:00	修了式			

研修参加者の声

事後アンケートより(一部抜粋)

- ・本当にいい体験でした、いろいろなことを勉強しました。JLC、JFスタンダード、Can-doなどの新しい理念が印象的でした。ワークショップで協働学習や共同作業などを体験できて、すごくいいチャンスだと思います。
- ・今まで中国で行われた日本語教育に関する研究会に参加したことはありませんでしたので、この形で行われているんだとびっくりした。興味深かったので、これからも参加したいと思います。
- ・今回の研修会を通して、新しい教学理念と教学方法を勉強しました。一番印象に残った活動といえば、やはりワークショップという活動だと思います。これから、自分の教学活動に実施しようと思います。
- ・はじめてこの研修会に参加できて、いろいろ勉強になりました。特に、スタンダードという言葉が初めて聞いて、学校に戻ってから、また。続いて深く吟味し、学生への教育の中、使うように努力したいと思います。
- ・日本語教師の仕事始めて今年二年目です。自分一人ではない、みんなと解決しようと思いました。みんなの工夫、アイデアを聞いて、気付いたことがたくさんありました。
- ・林洪先生の講義が一番印象に残った。具体的な教授法、教材分析の方法、教室活動の方法を指摘してくれて、これからの日本語教育に生かしていきたい。
- ・今後の課題として、実践教育と研究をうまく結びつけられるように頑張りたい。
- ・充実したスケジュール、多情報量が印象的でした。
- ・目標制定、Can-doのやりかたで、とても効果のある方法だと思いますので、帰ってから、実際の教育現場で使ってみたいと思います。
- ・今迄の教え方が全滅になっちゃうのではないかと困っていますが、1からやり直そうと決心します。Can-doや語言行動など新しい理念を頭に入れておき、学習者を主体にしましょう。
- ・参加させていただきましてありがとうございます、一日目の先生方のご講義と二日目のワークショップとCan-doのご紹介、それから三日目の林洪先生の授業改良の具体的例——頭に焼き付けて離れない、一番の感想は、いち早く夏休みを利用して、来学期のシラバスと授業目標、学習活動を考え、本当に学生たちに役に立つ新しい授業を捧げたい。
- ・国家スタンダードの設立と中身についての発表を聞くことができ、現在自分がやっていることの基準や方向性が確認できてよかったと思います。

- ・一番印象残ったのは、ワークショップです。協働作業するのは本当にいい方法です。そして、スタンダードという言葉がよく聞こえていて、これからの授業に役立つと思います。これからは日本語教育と地方のニーズに合わせて行う方法を探求すればいいと思います。
- ・ハードなスケジュールですが、いい勉強になりました。

以上

2014年日本語教育学実践研修の実施報告

日程： 2014年8月18日（月）～8月22日（金）
会場： 北京日本学研究中心
国際交流基金北京日本文化センター(8月20日)
主催： 国際交流基金北京日本文化センター
北京日本学研究中心
参加者数： 15名



研修内容

2010年度から北京日本学研究中心と共催で「大学教師日本語教育学研修会」として、北京周辺の大学教師を対象に行っていた研修(通称木曜研修)を昨年から全国の大学教師を対象にした研修にし、さらに形も夏の集中研修+冬の実践研究発表という形にしました。昨年の参加者からは内容の濃い研修として非常に高い評価を受けました。今年は、全国から15名の教師が参加しました。

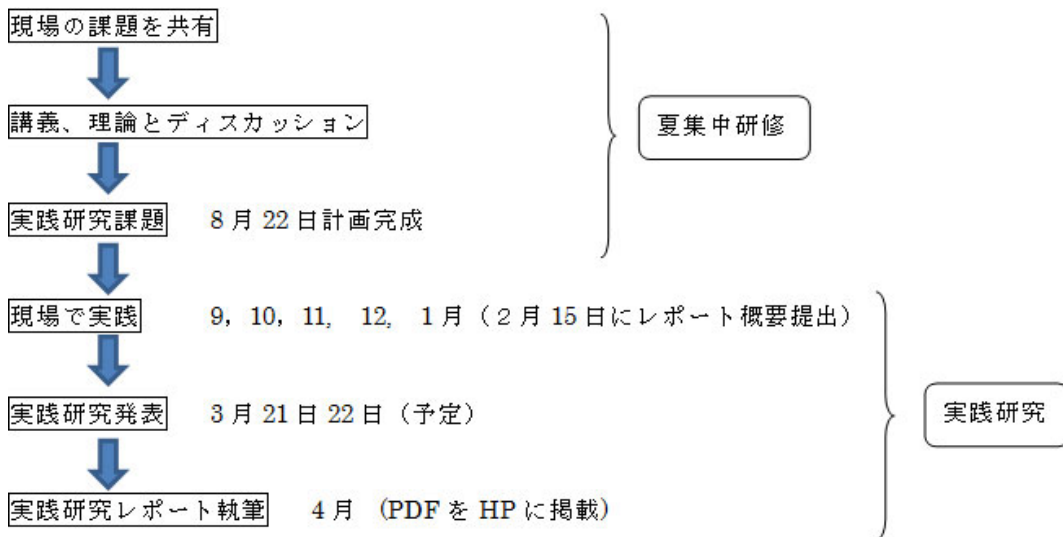
※2013年度日本語教育学実践研修についてはこちらをご覧ください。

<http://www.jpfbj.cn/download/2014/yanxiucezi.pdf>

コース目標は以下のとおりで、大規模研修では掘り下げられない「実践・内省重視型」の小規模研修として位置付けています。

- (1) 日本語教育を実践と研究の両面から捉え、自らの問題意識を確認する。
- (2) 実践の内省を通して、授業の更なる改善を目指す。
- (3) 研修ポートフォリオを作成し、各自の教育活動の中に本研修を位置づける。

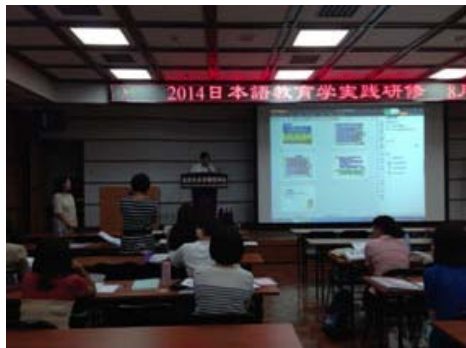
研修は以下の流れで実施されます。



各プログラムの詳細

講義

- ①新しい理念と教え方を考えるー教材改革例を通してー曹大峰先生（北京日本学研究センター）
- ②教師の意識変容の学習を目指してー実践を語る、聴く 朱桂栄先生（北京日本学研究センター）
- ③第二言語習得理論 松浦とも子専門家（北京日本文化センター）
- ④聞くことを考える・オンラインリソース 鈴木今日子専門家（北京日本文化センター）
- ⑤評価を考える・JFスタンダード 柳坪幸佳専門家（北京日本文化センター）



曹大峰先生



朱桂栄先生



松浦とも子専門家



柳坪幸佳専門家

実践研究課題相談及び発表

上記講義のほかに、4回にわたって計7.5時間のクラス別課題相談と論文講読の時間を設けました。論文講読は、内容の読み取りというよりも、実践研究の方法とそのまとめ方を学ぶために実施しましたが、扱った論文は、「ピア学習による仮説検証型聴解授業の試みーカザフ民族大学を例にー」(ジョリナ・ダリヤグル 2008年日本語国際センター修士課程論文『日本語文化研究会論集2008年第4号』)、「ジグソー学習法を活用した大学院授業における学生の意識変容についてー活動間の有機的連携という観点からー」(朱桂栄・砂川有里子 『日本語教育145号』)の2点です。後者に関しては、朱桂栄氏自ら本研究の流れと方法について講義をしていただきました。

さらに課題発表前日には3時間の自由準備時間を設け、発表に4時間かけたので、合計14時間を実践研究の課題決定と発表に費やしたことになります。それ以外にも、休み時間には日研センターの図書館を利用し、熱心に関連図書に目を通す姿が見られました。図書館が利用できたことはこの研修に厚みを持たせていると考えます。クラス別の課題相談ではグループ相談、全体での相談及び教師と1対1の相談を織り交ぜながら各クラス担任が進行した。授業後の時間も参加者同士で遅くまで議論が続いたようです。1日目には実践研究とは何かがわからないで参加していた者も、最終日にはまとまった計画を発表できるまでになりました。今年の実践研修のうち、夏の集中研修はこれで終了しました。ですが、本当の実践研修は、これからがスタートです。2月にどんな実践研究レポートが出てくるか、今からとても楽しみです。

実践研究課題例

- ・ピアラーニングを導入したプレゼンテーション授業のデザイン
- ・日本語非母語話者同士の学びを支える実践研究
- ・日本語基礎授業におけるシャドーイングの利用について



課題相談（１）



課題相談（２）



実践研究課題発表

参加者の声

2014日本語教育学実践研修アンケート結果より（一部抜粋）

- ・五日間の研修を通して、自分自身の成長が実感できました。漫然とした「課題」が先生方のご指導をいただいて、明確になるようになりました。本当にいい経験です。この研修で学んだ教育理念を活かして、これからの教育現場できっと役に立つと思われます。
- ・先生方々のご指導とご意見を教えていただいて、いい勉強になりました。これから、新しい教授法を授業に使ってみたいと思います。
- ・①担当教師からいろいろアドバイスをいただきました。②講座の専門家から理論から実践のやり方まで詳しく教えていただきました。③他の学校の教師とよく交流できて、友達になりました。
- ・今後の授業にぜひ今回の習った理論、教学の新方法を使いたいです。また新しく出版された研究の参考書をいただき、とても価値のある研修会だと認識しました。
- ・今回の研修は五日間しかありませんが、顔が見られる、声が聞こえて仲間と交流できた研修です。専門家と身近に接することができ、いろいろなアドバイスをいただいて、ほんとうに勉強になった気がしました。研修のテーマとこれからの実践についても、前より明確になりました。研修は終わりましたが、実践は新しいスタートです。これから先生方と相談を乗って、現場での研修に力を入れたいと思います。
- ・たいへん成長させられる研修でした。理論基礎の充実、また方法論の学び、得たもの、そしてわいてきた「実践研究」の意欲をいかして次のステップを踏みたいと思います。

2014《艾琳学日语》教案评比大赛公布结果!

2014年《艾琳学日语》教案评比大赛收到了来自全国各地的众多参赛作品。对大家积极地参加该项比赛，我们表示由衷的感谢。经过北京日本文化中心的专家和人民教育出版社共同评审，最终决定对如下教师予以表彰。奖状和奖品会在之后寄往获奖教师所在学校。

艾琳学日语（中文） <http://www.jpfbj.cn/erin/>

主办：北京日本文化中心（日本国际交流基金会）

参赛资格：中国中等教育机构的中国人日语教师

※平时教学中未使用《艾琳学日语》者也可参加。

参赛日期：2014年8月4日（周一）～8月31日（周日）

评委：北京日本文化中心（日本国际交流基金会）日语教育专家
人民教育出版社课程教材研究所日语课程教材研究开发中心

协办：日本国家旅游局北京办事处(提供日本观光海报)

公布结果

最佳教案奖

张丽 老师 黑龙江省哈尔滨市方正县第一中学

→**获奖教案**

奖品：夏季和服一套（含木屐）

艾琳海报、日本观光海报

艾琳假名表、艾琳量词表

艾琳文件夹、艾琳笔、艾琳便笺



我们将邀请最佳教案奖获得者参加2015年春季全国中学日语教师研修会。同时，请获奖教师录制实际授课视频，并在研修会上发表。

优秀奖

王美玲 老师 常州旅游商贸高等职业技术学校

→**获奖教案**

特别奖

何龙 老师 中国人民大学附属中学

→**获奖教案**

优秀奖·特别奖奖品：

号衣一套

艾琳海报、日本观光海报

艾琳假名表、艾琳量词表、

艾琳文件夹、艾琳笔、艾琳便笺

鼓励奖

※排名顺序不分先后

王恬静 老师 成都外国语学校

何洪平 老师 福建省福州外国语学校

任中文 老师 中国人民大学附属中学

朴英淑 老师 吉林省敦化市第二中学校

任红花 老师 吉林省敦化市第二中学校

周俊蓉 老师 侯马市职业中专学校

杨杰川 老师 中国人民大学附属中学

袁桂红 老师 浙江省平湖职业学校

李英实 老师 吉林省敦化市第二中学校

平腾飞 老师 山东省济钢高级中学

严东淑 老师 月坛中学

孟彬彬 老师 浙江省平湖职业学校

谢静怡 老师 河北省秦皇岛市实验中学

奖品：日本观光海报

艾琳假名表、艾琳量词表、

艾琳文件夹、艾琳笔、艾琳便笺



评语

最佳教案奖 张丽先生 黑龙江省哈尔滨市方正县第一中学

讲评：国际交流基金北京日本文化センター 日本語教育専門家 平田 好

コンビニは中国、日本をはじめとして多くの国にあり、コンビニで買い物をしたことがない生徒はいないのではないのでしょうか。身近なトピックとして取り上げやすく、第4課の教案による応募が多数ありました。そのなかでも、張麗先生の教案は、「自分でコンビニを開く」という応用練習のアイデアが光ったものでした。

導入では、コンビニでの行動を振り返って、買い物をするときに使用する語彙や表現を意識化させます。その後、生徒はビデオの聞き取りや漫画の読解によって、視覚・聴覚双方をつかって練習に必要な語彙・表現への理解を深めます。グループによる練習を通じて自発的に疑問点を解決する力の育成も考えられています。そのうえで、既存のコンビニ商品だけでなく売りたいものも考えて、自分でコンビニを開くという創造を行います。自分で発見し、理解できたと思ったら、それが通用するかどうか確認のために実際にやってみる、という認知学習理論が生かされた流れになっています。張麗先生の教室では、生徒が楽しく言語運用能力をしっかりと身につけていることでしょう。

在中国、日本等很多国家都有便利店。没有在便利店里买过东西的学生恐怕不存在吧。因为是身边的事物比较容易取材，所以很多老师选择了第4课作为参赛作品。其中，张丽老师在自己的教案中设计了“自己来开便利店”这样一个应用练习，立意新颖，脱颖而出。

在导入部分，通过回顾在便利店里活动，使同学们意识到买东西时需要哪些词汇和表达。然后，同学们通过看录像带和读漫画，视觉・听觉上都进行了练习，加深了对必须掌握的词汇・表达的理解。通过小组练习又可以培养大家自我解决问题的能力。在这之后让同学们思考自己开便利店，不仅是既有的便利店的商品，还可以考虑自己想卖的东西。当自己觉得可以发现问题，理解问题的时候，通过实际运用才能验证其是否可行。这正是对认知学习理论的一种灵活运用。在张丽老师的课堂上，学生们一定能在快乐中掌握运用语言的能力。

评语：人民教育出版社课程教材研究所日语课程教材研究开发中心 李家祥

张丽老师的教学设计目标条理清晰，重点把握准确，突出培养学生实际运用日语完成具体任务的能力。通过编排小

组活动，培养学生的合作能力。在合理搭配小组活动的成员，使日语能力不同的学生均能够有机会得到锻炼和提高，体现出尊重学生个体差异、重视课堂公平的教学意识。导入部分通过提出与学生日常生活密切相关的问题，引起学生的学习兴趣，激发学生的问题意识，为正课的学习起到了很好的铺垫作用。在正课的教学活动中让学生在合作学习、自主探究式学习中理解和掌握知识、总结学习要点，将教师定位为学生学习活动的辅助者，在学生需要帮助时及时提供协助，充分体现了学生的学习主体作用。教学活动中的时间分配较为零碎，“宝くじを探す”活动的步骤和内容不够具体，可以说是本教学设计稍显不足的地方。

优秀奖 王美玲先生 常州旅游商贸高等职业技术学校

講評：国際交流基金北京日本文化センター 日本語教育専門家 清水美帆

王先生の教案は第4課の授業案で、授業目標は、主に「場所を聞く」、「答える」、場所・方向を表すことばを自由に使えるようになることでした。

王先生の教案は、どの活動も上記の授業目標と合っていた点と、多様な活動を織り交ぜられていた点で良かったと思います。まず、基本スキットを使って「場所を聞く」「答える」表現をしっかり理解する時間があり、その後ペア練習やグループでのミニゲーム、教科書にある「活動」を応用した練習など、学習者が実際に表現を使って話せる活動が豊富でした。

また、質問を出してDVDを見る前に予測させたり、ポイントに気付かせたりするなど、目的に合わせてより効果的にDVDを見せるための一工夫もされていました。

この授業を通して、しっかり、かつ楽しく学びながら、「場所を聞く」「答える」という学習目標を達成できるのではないかと思います。

王老师选择了第4课来进行教案设计，教学目标主要是让学生能自由运用“询问地点”、“回答”、表达地点・方向的词汇。

在王老师的教案中，穿插了丰富多彩的活动，并且每一项内容都十分贴合上述教学目标，首先运用基本短剧，让同学们有时间去充分理解“询问场所”“回答”的表达方式。然后进行两两练习，分组小游戏，应用教材上的“活动”等练习，让学生们实际运用表达进行会话的活动十分丰富。

另外，先提出问题让同学们在看DVD前进行猜想，并提示给学生重点内容，为契合教学目的，让同学们能更有效地观看DVD，王老师着实下了一番功夫。

通过这样的授课，相信同学们一定能扎实、快乐地学习，实现“询问地点”“回答”这样的学习目标。

評語：人民教育出版社課程教材研究所日語課程教材研究開發中心 李家祥

目标设定与教学活动联系紧密，既强调实际运用，又突出日语表达的特点。导入环节通过引导学生归纳已学日语表达的特点，调动学生的观察能力，让学生自主发现日语疑问句的表达特点，体现了发现式学习的教学方法。小游戏活动的趣味性比较强，既能活跃课堂气氛，也能强化学生对方位词的理解和掌握。在学生观看录像之前给学生提出有关录像主要内容的问题，既能降低学习内容的难度，也能让学生有针对性地学习，避免学生学习的盲目性。在观看录像之后，让学生用自己的语言讲述录像内容或许有一定的难度，但是能培养学生的语言组织能力和归纳能力。通过编排贴近日常生活的游戏活动，既能营造出轻松愉快的学习氛围，激发学生的学习兴趣，也体现了重视实际运用的教学指导思想。教学活动中非常重视评价的激励作用，既有教师对学生的评价，也有学生对学生的评价，体现了评价的多元化。此外，教学活动的各个环节之间的脉络不够清晰，或许是本教学设计需要进一步完善的地方。

特别奖 何龙先生 中国人民大学附属中学

講評：国際交流基金北京日本文化センター 日本語教育専門家 鈴木今日子

何竜先生の教案は、第二外国語のクラスを想定して書かれています。そのため、言語学習より、異文化理解に焦点があたっています。「セブン・イレブン」の歴史を紹介した後、日本と中国のコンビニを比較し、中国のコンビニサービスの改善点を討論するという活動は、単なる日本文化理解に留まらず、翻って自分の文化について考えるという、異文化理解能力を高める活動と言えると思います。

また、映像の見せ方もとてもいいと思いました。生徒たちに「夜、自習時間の後、どこに食べ物を買に行きたい?」と問いかけて、生徒たちの身近な話題から自然に導入した後、クイズを出して、その答えを映像の中から探させるという見せ方は、自分が推測したことが正しいかどうか意識して聞くことになり、必要な情報を聞き取るという日常のコミュニケーションには欠かせない聴解ストラテジーを養うことができます。

何龙老师在设计教案时将授课设定为第二外语的学习。因此，比起语言学习，还是将重点更多地放在了对不同文化的理解上。在介绍了「7-11」的历史之后，又将日本和中国的便利店进行了比较，并讨论了中国的便利店在服务方面需要进行改善的地方。如此一来，教学并没有仅仅停留在对日本文化的理解上，反过来对自身的文化也进行了思考，提高了同学们对不同文化的理解能力。

另外，何老师让学生看影像的方法也非常好。先是问学生“晚上，下了晚自习，想去哪儿买东西？”从学生切身的话题很自然地导入之后，再抛出谜题，让同学们自己在影像中寻找答案。同学们会带着自己猜测的对不对的想法去有意识地听，培养了学生在日常交流中不可或缺的听取必要信息的听解能力。

2014年度第3回日本語教育学シリーズ講座の開催

国際交流基金北京日本文化センター・中国日語教学研究会山東分会共催

2014年度日本語教育学シリーズ講座 第三回講座

2014年9月27日（土）午前9:00～11:20

会場 山東師範大学（済南）

ニューサウスウェールズ大学教授 トムソン木下千尋先生 ご講演

「学習者が活躍する教室活動」

～講師からのメッセージ～

海外で日本語を学ぶ学習者は、教室の外で日本語を使う機会は少ないです。海外の学習者にとって日本語の教室は、日本語を学ぶ場であると同時に日本語を使う場でもあります。しかし、私たちの教室の日本語学習者達は、教室内でどの程度日本語を使っているのでしょうか。共通言語のある海外の教室内で、日本語使用を促すには、どのような活動が効果的でしょうか。そのような活動を行う上で教師の役割はどのように変わるのでしょうか。この講演会では、教室内で、学習者が日本語を使って活躍できるような活動をオーストラリアの実践例を引いて検討したいと思います。

～講師ご略歴～

学習院大学文学部英米文学科卒業、アリゾナ州立大学教育学修士号と博士号取得。シンガポール国立大学日本研究学科専任講師、ニューサウスウェールズ大学上級専任講師、准教授を経て同大学教授。専門は日本語教育学、論著・論文は多数ある。豪州日本研究会前会長として世界的に日本語教育研究と学術交流に貢献。編著『学習者主体の日本語教育』はサー・ニール・カール賞受賞、オーストラリア政府学習・教育局より学習者の学びへの卓越した貢献に対しオーストラリア大学教育賞受賞。

日時：2014年9月27日（土）午前9:00～11:20

講師：ニューサウスウェールズ大学教授 トムソン木下千尋先生

対象：日本語教師

定員：40名

会場：山東師範大学文化楼3階会議室

住所：済南文化東路88号（最寄駅：山師駅）

参加費：無料

使用言語：日本語

申込方法：来場ご希望の方は、氏名・所属先・携帯電話番号を明記の上、9月25日（木）までにメールでお申し込みください。[メールの件名は「9月27日講座」](#)をお願い致します。会場の都合上、定員に達した場合お断りすることもあります。

宛先：中国日語教学研究会山東分会

E-mail：shdryzhx@sina.com（中国語）、shdryzhx@yahoo.co.jp（日本語）

总部公开招募项目

日本国际交流基金(The Japan Foundation)主要开展文化艺术交流，促进海外日语教育和日本研究·知识交流三大事业。针对这三大事业，本基金会通过公开申请项目，向策划并实施国际交流事业的个人和团体，提供资助金，奖学金 (fellowship)，支持他们的活动。

希望申请公开项目的各位，请登录本基金会本部的网址，

· 日语版: <http://www.jpf.go.jp/j/program/index.html>

· 英语版: <http://www.jpf.go.jp/e/program/index.html>

首先点击「申請資格、申請の手続き」，确认您的申请资格和申请手续。

(初次申请者请点击「はじめて申請される方へ」，了解详情。)

上述三大事业，从中国国内可以申请的项目如下：(以下链接全部是日语)：

1. 文化艺术交流项目

「资助海外展览」(海外展助成) ※截止日期**12/1** (周一)

http://www.jpf.go.jp/j/program/culture.html#cul_3

「资助翻译出版」(翻訳出版助成) ※截止日期**11/19** (周三)

http://www.jpf.go.jp/j/program/culture.html#cul_4

2. 海外日语教育

「日语教育指导者(硕士课程)」(日本語教育指導者(修士課程)) ※截止日期**12/1** (周一)

http://www.jpf.go.jp/j/program/japanese.html#jp_6

「海外日语教师研修(高级)」(海外日本語教師研修(上級)) ※截止日期**12/1** (周一)

http://www.jpf.go.jp/j/program/japanese.html#jp_5-2

「专业日语研修(文化·学术专家)」(専門日本語研修(文化·学術専門家)) ※截止日期**12/1** (周一)

http://www.jpf.go.jp/j/program/japanese.html#jp_7

3. 日本研究·知识交流

「日本研究奖学金」(日本研究フェローシップ) ※截止日期**12/1** (周一)

http://www.jpf.go.jp/j/program/intel.html#intel_1

「资助知识交流会议」(知的交流会議助成) ※截止日期**12/1** (周一)

http://www.jpf.go.jp/j/program/intel.html#intel_2

期待大家踊跃报名申请!

各地咨询电话以及申请书提交地具体如下：

申请书提交地

(各地总领事馆接收部门为其新闻文化中心)	申请人所在地区
<p>北京日本文化中心 TEL: 010-8567-9511 URL: http://www.jpfbj.cn/index.asp</p>	<p>北京市、天津市、河北省、河南省、山东省、陕西省、内蒙古自治区、湖北省、湖南省、山西省、甘肃省、青海省、宁夏回族自治区、新疆维吾尔自治区、西藏自治区</p>
<p>驻沈阳日本总领事馆 TEL: 024-2322-7490</p>	<p>辽宁省、吉林省、黑龙江省</p>
<p>驻上海日本总领事馆 TEL: 021-6219-5917</p>	<p>上海市、浙江省、江苏省、安徽省、江西省</p>
<p>驻广州日本总领事馆 TEL: 020-8334-3009</p>	<p>广东省、福建省、广西壮族自治区、海南省</p>
<p>驻重庆日本总领事馆 TEL: 023-6373-3585</p>	<p>重庆市、四川省、贵州省、云南省</p>
<p>驻香港日本总领事馆 TEL: 852-2532-2379</p>	<p>香港特别行政区、澳门特别行政区</p>

关于举办"2015春季全国中等日语教师研修会"的通知

为提高广大中学日语教师的日语水平和教学能力，增进教师间的学术交流，课程教材研究所与北京日本文化中心（日本国际交流基金会）拟于2015年3月在苏州共同举办"2015年春季中学日语教师研修会"。报名办法等，详情请参阅附件。

[活动邀请函 \(PDF\)](#)

[报名申请表 \(DOC\)](#)